

津山郷土博物館だより「つはく」

津博

TSUHAKE

2025.5 No.124

トピックス

- ・「津山松平藩町奉行日記三十一」刊行
- ・Facebookはじめました
- ・ミニ企画展「博物館探検Ⅱ」
- ・講座案内
- ・夏の学習プログラムについて

研究ノート

「幕府からの目付派遣」

東 万里子

お知らせ

- ・年間計画
- ・人事異動

(博物館の屋上から撮影した津山城の桜)



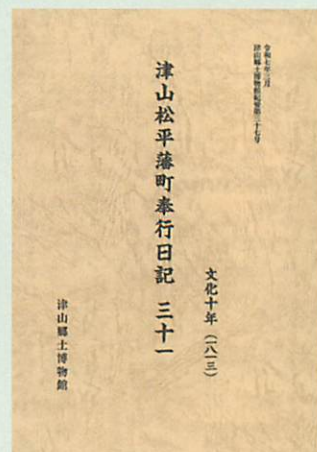
津山郷土博物館

Tsuyama City Museum

『津山松平藩町奉行日記三十一』を刊行しました

令和7年3月に刊行した『津山松平藩町奉行日記三十一』は文化10年(1813)正月から6月の記事を翻刻・掲載しています。当時の町奉行は前年5月に就任した田中簗助でした。

この年の大きな出来事として、万人講の開催、佐渡守(松江廣瀬藩主松平直寛)の宿泊等が上げられます。簗助の記述は詳細で、津山城下町の様子を具体的に知ることができます。



Facebook はじめました!!

郷土博物館では、今年度の桜開花にあわせてFacebookを開設しました。今後は、博物館の活動や展示などのイベントについて発信していく方針です。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。(アカウントをお持ちの方は是非フォローをお願いします)



津山郷土博物館

📷 カバー写真を編集

URL : https://www.facebook.com/profile.php?id=61574715863935&locale=ja_JP

ミニ企画展 博物館探検Ⅱ

令和7年度ミニ企画展「博物館探検」を開催します。

夏休みにあわせてクイズを設置します。

とき 7月19日(土)～9月28日(日)



展示予定の吉田初三郎「津山市鳥瞰図」(部分)、当館所蔵

古文書講座・歴史講座のご案内

今年度も2つの講座を実施しています。

- ・古文書講座「美作の古文書を読む」

講師：当館学芸員 前期：網澤広貴 後期：乾康二

- ・歴史講座「『江戸一目図』を読み解く⑤-『江戸一目図』に見る江戸の社会と暮らし-」

講師：当館元館長 尾島治さん

どちらの講座も年度途中からでも申込可能です。

夏の学習プログラムについて

夏休みに小学生向けの講座を下記の通り実施します。

まがたま 勾玉をつくろう かっせき 滑石をけずって、古代のかざりをつくります。

と き 8/5 (火) 10:00～11:30
8/6 (水) 10:00～11:30

ところ 津山郷土博物館 2階研修室

対 象 小学生

定 員 各回10名

参加料 500円 (材料代、保険代) 当日集金します。

用意する物 筆記用具、勾玉をみがく布 (ハギレ、ハンカチ、タオルなど)、マスク
飲み物、汚れても良い服装 ※石をけずるので、白い粉がたくさんでます。



応募締切
7/23(水)
必着

びょうぶ 屏風をつくろう 「屏風製作キット」でオリジナルのミニ屏風を作ります。

と き 8/19 (火) 10:00～11:30
8/20 (水) 10:00～11:30

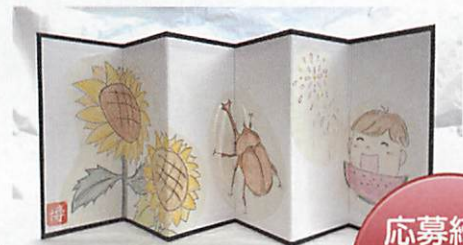
ところ 津山郷土博物館 2階研修室

対 象 小学生

定 員 各回10名

参加料 500円 (材料代、保険代) 当日集金します。

用意する物 筆記用具、色鉛筆 (またはクーピー)、はさみ、のり、飲み物



応募締切
8/4(月)
必着

講座への申込方法

各講座への申し込みは、往復ハガキで受け付けます。講座ごとにお申し込み下さい。

往復ハガキ1枚につき1名の申し込みです。(レクリエーション保険に加入するため、受講者を変更する事は出来ません。)

往信 (表)	返信 (裏)	返信 (表)	往信 (裏)
☐ 708-0022 津山郷土博物館 夏の学習プログラム 〇〇〇〇〇係 (希望の講座名)	ここには 博物館が 連絡事項を 記入します。	☐ 郵便番号 あなたのお名前 ご自宅の住所	1 講座名・希望日 2 住所・氏名(ふりがな) 3 学校名・学年 4 電話番号 5 生年月日

定員を超える場合は抽選となりますのでご了承下さい。記入漏れのないように気をつけて下さい。

幕府からの目付派遣

東 万里子

はじめに

目付とは、監察役を指す言葉です。なかでも江戸時代の国目付とは、幕府が諸藩へ臨時に派遣した監察役人を指します。とくに幼少の藩主の襲封間もない大藩へ多く派遣されたと言われています。国目付は数ヶ月藩地に滞在し、「家中分限帳」や「国絵図」などを提出させたり、領内巡見を行ったりして藩の内情把握につとめました（『国史大辞典』）

津山藩には享保一〇年（一七二五）に国目付が派遣されました。『津山市史第四巻』には、この国目付派遣について、次のような記述があります。

「折から、八代將軍徳川吉宗によって享保の改革が進行していた幕府では、津山藩に国目付を派遣して藩政の状況を調査することになった。享保一〇年二月二五日、幕府は八木主馬・大岡弥太郎の兩人を国目付として津山藩へ派遣することを決定し、五月一〇日、兩人は津山へ到着した。六月二日の城内見聞を皮切りに、一三日から二〇日まで廻村を行い農村の状況をつぶさに監察

した。兩人は十一月二日まで津山に滞在した。滞在は五か月に及び、幕府の津山藩への監察指導は並々ならぬものであったと思われるが、その詳細については不明である。」「国目付」は、『国元日記』などには「御目付」「国目付」などと出てきます。数が多くないため市史が指摘しているとおり詳細はわかりませんが、本研究ノートでは、『江戸日記』や『国元日記』にある目付関連の記述を紹介し、津山藩側の対応などについて考えてみたいと思います。

藩主宣富死後直後の状況

享保六年（一七二一）二月六日、藩主宣富が亡くなりました。『国元日記』によると、宣富は津山におり、前日は鷹狩りに出ています。六日になって急に頭痛を訴えて同日に亡くなっており、急死であったと考えられます。三月二六日に宣富の幼い息子浅五郎が藩主を継ぐことになりましたが、それより前、三月六日に藩から「御目付中」への対応について指示が出ています。指示は二点で、一点は狩野洞学などに対し「今度御

目付中御越につき、御城絵図おおせつけ」るもので、もう一点は、「御目付中御越につき本多左門・山田主膳屋敷」を使用するたため二人に屋敷替えを命じるものです。しかし、その後『国元日記』に幕府からの目付に関する詳細な記述は見られず、よくわかりません。この事について、尾島治氏は「幼年の藩主が相続したため、幕府から目付が派遣されることが予想され」たための指示であったとしています（『津山藩狩野派絵師狩野洞学』）。

同じく享保六年九月二三日には「今度公儀より山見分御目付御越につき高野永安寺・小桁村極楽寺へ宿坊」が命じられることもあるので、心得ておくようにという指示が出ています。これについてもその後詳細な記述はなく、よくわかりません。

とにかく不明な部分が多いものの、津山藩は宣富の急死により幼少の浅五郎が藩主を継いだことで、幕府から目を付けられる可能性が高いことを察知し、危惧していたことが伺えます。

享保一〇年の国目付

享保期より約四〇年～五〇年前ですが、寛文・延宝期（一六六一～一六八〇年）における国目付は、必ずしも藩主が幼少の場合のみに派遣されるものではなく、天変地異のときに表向きは藩主幼少のためとして国目付を差し向け、その政情を調査することができたとする研究があります（善積美恵子「江戸幕府の監察制度―国目付―を中心に」）。

津山では、国目付が派遣される前年に洪水が発生、その被害を幕府にも報告しています。「江戸日記」享保九年九月晦日条によると、九月六日～八日の大風雨の被害について、高一万六千石余り洪水にて損毛（損失）・潰家一八五軒・半潰家七三軒・倒木折三八七四本の被害があったことがわかります。

享保一〇年は浅五郎が藩主を継いでから約四年が過ぎた時期であり、国目付の派遣は、藩主が幼少であるためだけではなく、前年の洪水などの影響もあったのではないのでしょうか。

国目付への対応

享保一〇年に幕府から派遣された国目付への対応については、「江戸日記」や「国元

日記」に記述があります。

享保一〇年二月二十五日、幕府は八木主馬・大岡弥太郎の兩人を国目付として津山藩へ派遣することを伝えました。四月一二日は八木と大岡を江戸藩邸に招き、二汁七菜の料理でもてなしました。また藩主浅五郎の母である光円院より八木と大岡へそれぞれ贈答品と思われる「桧重一組」が遣わされています。四月二四日に八木と大岡は津山へ出立し、品川まで津山藩士の大場が見送りました。

一方津山では三月四日に家中へ八木主馬と大岡弥太郎と名前が似ているものは改めるようにという指示が出ます。翌日には二人に提出する切支丹の類族、領内在方鉄砲などについての書類提出の指示があります。一二日には、現在藩は「至極困窮」であり、そのことは幕府もよく知っていることではあるが、見苦しくないように繕うようにという指示があります。三月一五日には家中へより詳細な内容の触書が出ました。八木と大岡のことは、「様」付けで呼ぶこと、二人が城見分や村を巡見する際に側にいる場合は綿服を着用しないこと、家中屋敷筋は見苦しくないように修復しておくことなどです。

津山藩では、宝永頃から儉約のために木綿類の着用を推奨し、綸子・縮緬・羽二重

などを用いることを禁止していた時期がありました。しかし、国目付が来るにあたっては綿服着用の指示を覆し、籠末な服では不敬にあたるので、詳しくは書付を見るようにと四月一二日に服装について再度詳細な指示を出しています。

そしてついに五月一日、八木と大岡は津山へ到着しました。八木主馬は渥美図書の明屋敷へ、大岡弥太郎は山田主膳の屋敷へ入りました（図1）。渥美図書の明屋敷は山田主膳の屋敷付近であったと考えられ、どちらも城に近い屋敷であったことがわかります。到着後二人は六月二日の城内見聞を皮切りに、一三日から二〇日まで廻村を行い、二〇日には御対面所（現在の衆楽園）で切麦などを食べています。八月一二日には城で三汁九菜の料理を食べ、一〇月一八日にも城でもてなしを受けています。そして十一月二日、津山を出立しました。

この期間、「江戸日記」には、六月二十五日、七月一九日、八月五日、九月一日、九月二日に八木・大岡より老中へ報告書が提出されている旨の記載があります。

おわりに

この時期の津山藩は享保元年・二年と江戸屋敷が火災にあい、九年には洪水と「至

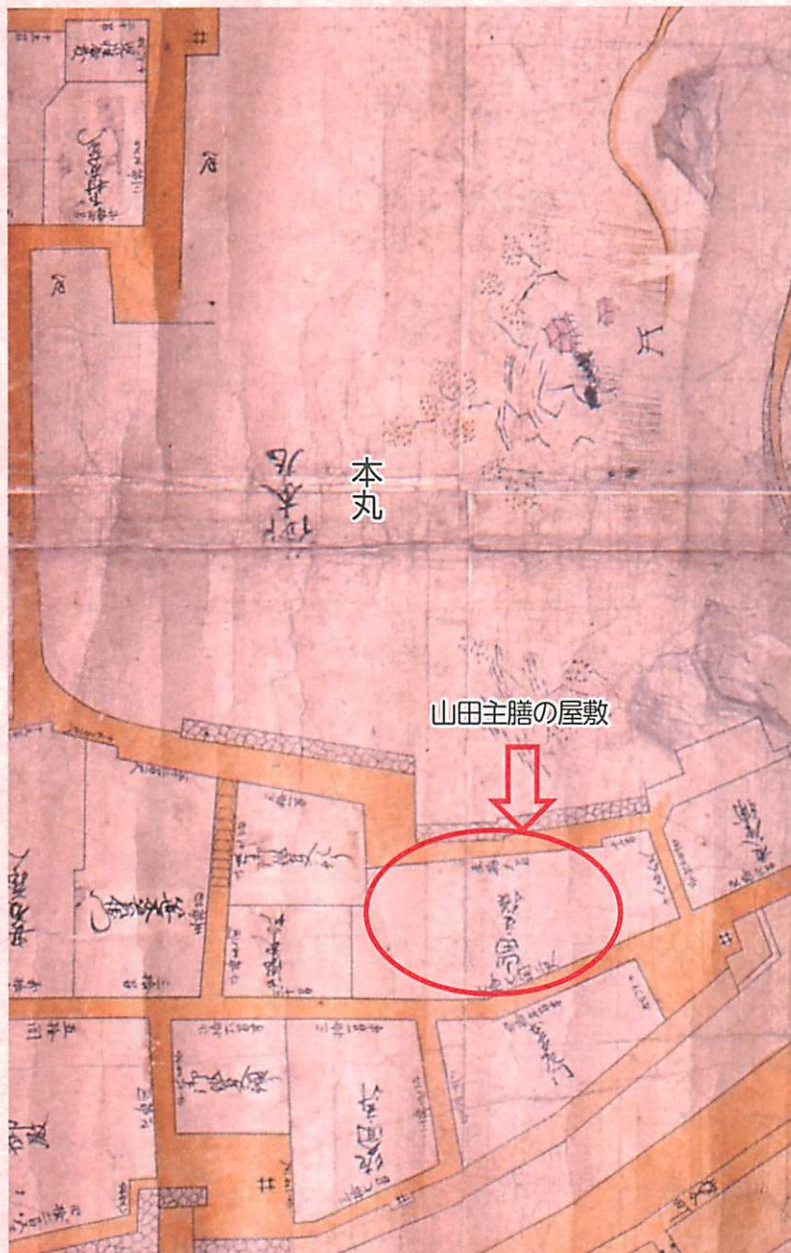


図1 津山御城下惣絵図（享保7年）

山田主膳屋敷の場所は、現在郷土博物館がある場所です。
ここに国目付が宿泊しました。

極困窮」しており、そのことは幕府にも知れ渡っていたことがわかります。幼少の浅五郎が藩主を継いで四年経過したタイミングでの国目付派遣は、津山藩のこのような状況が関係していたのかもしれませんが。藩は、国目付が津山に来るにあたって、家中に何度も触を出し、困窮するなかでも服装や家屋敷の修繕について指示を出しました。また、江戸でも津山でも国目付兩人をもてなしています。そして城に近く広い屋敷を

用意しました。これは、国目付、ひいては幕府に悪い印象を与えないようにするための精一杯の対応だったのでしょうか。

このとき、国目付が幕府へどのような報告を行ったのか、その内容はわかりません。国目付派遣の翌年、藩主浅五郎が亡くなると、幕府は早急に跡継ぎと五万石の相続を決定しました（『津山市史第四巻』）。このような重要な決定の際に、もしかしたら国目付の報告書も読まれたのかもしれませんが。

令和7年度 津山郷土博物館友の会 会員募集

郷土の歴史と文化に対する理解と関心を深めてもらい、たがいに情報を交換し、ひいては博物館愛好者をさらに増やすことを目的に、博物館友の会を募集しています。

会費は1,000円です。会員になると、津山郷土博物館の常設展・企画展が無料で観覧できます。ぜひお申し込みください。

お問い合わせやお申し込み

津山郷土博物館友の会事務局 津山市山下92 TEL 0868-22-4567 FAX 0868-23-9874

令和7年度 行事予定

※変更する可能性があります。

詳細は決定次第ホームページなどに掲載いたします。

◆特別展・企画展など

- ・企画展示「江戸一目図屏風実物展示－鋏形蕙斎と江戸－」
会期：3月29日（土）～5月11日（日）
 - ・ミニ企画展「博物館探検II」
会期：7月19日（土）～9月28日（日）
 - ・特別展「歴史友好都市縁組30周年・40周年記念－土庄町と可児市と津山－（仮）」
会期：10月18日（土）～11月24日（月）
- この他にもさまざまな企画展を開催する予定です。

◆出版

- ・津山松平藩町奉行日記32の刊行
- ・令和6年度年報の刊行

◆広報活動

- ・博物館だより「津博」
No.124：5月 No.125：8月 No.126：11月 No.127：2月

◆教育普及活動

- ・古文書講座 全9回
- ・歴史講座 全9回
- ・夏休み子供歴史講座

※人事異動（令和7年4月1日付け）

前館長 小郷 利幸（退職、再任用で津山弥生の里文化財センターへ）
新館長 仁木 康治（津山弥生の里文化財センターから）



博物館だより「つはく」
No.124 令和7年5月31日



〔編集・発行〕津山郷土博物館

〒708-0022 岡山県津山市山下92

Tel (0868) 22-4567

Fax (0868) 23-9874

E-mail tsu-haku@tv.t.ne.jp



〔印刷〕二葉

入館のご案内

〔開館時間〕午前9:00～午後5:00

〔休館日〕毎週月曜日・祝日の翌日

年末年始（12月29日～1月3日）・その他

〔入館料〕一般…300円

（30人以上の団体の場合240円）

高校・大学生…200円

（30人以上の団体の場合160円）

65歳以上…200円

（30人以上の団体の場合160円）

中学生以下・障害者手帳を提示された方は入館料が無料です